

講演 「ブロック別園内公開保育企画・運営について」

講師 京都教育大学 准教授 佐川 早季子氏

1. 今、なぜ園内研修が大切なのか？

- ・資質向上のための研修の機会を確保しなければならない。
- ・職員全体の専門性の向上を図るよう努めなければならない。

(教育公務員特例法・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準・保育所保育指針)



1. 職員の「個人的な努力」よりも、「園全体として」取り組む【組織的に】
2. 施設長の役割の重要性を強調
3. 内外の研修への参加を強く奨励
4. 「キャリアパス（専門性が上がっていく道筋）」を構築する

-汐見稔幸・おおえだけいこ (2017)「さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか」小学館

2. 自園の状況にふさわしい研修のあり方は？

園の状況でふさわしい研修のあり方は多様。

☆共通して大切なのは、研修がおもしろくなるサイクル

専門家としての学びが「おもしろい」と感じることで、そして参加した手ごたえを感じることから



-秋田・上田・門田・野口・箕輪・小田・椋田・淀川 (2021)「楽しくなる おもしろくなる園内研修のために」JSPS 科学研究費 (基盤研究 A 課題番号 16H02063)「保育者の学習過程を支える園内研修とリーダーシップの検討」成果物

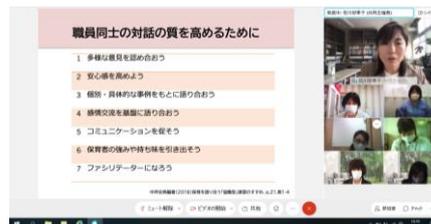
○一人一人の学びを支えるための2つの軸

- ・職員同士の対話の質
 - ・一人一人の気づきの深まり
- 全体で、高めていくことが大切

3. 研修の目的から、研修方法を考える

現場での基本的な流れ

1. 園内研修の目的を検討する
2. 対象者と日時を設定する
3. 方法を検討する
4. 準備する



グループ討議 ～ブロック別園内公開保育でどのような研修をしたいですか？～

○8グループに分かれて話し合い、発表する。

【研修の目的をどこにおくか】

- ・研究主題に沿ったカンファレンスを行いたい。
- ・担任と相談しながら、決めたい。
- ・年齢に合った遊びとは。
- ・子どもの姿から環境構成や援助・その時期の発達を共有できるようにする。
- ・子どもたちにどんな学びがあるか。
- ・保育者の声かけの仕方、子どもが変わっていく姿。
- ・乳児から幼児のつながりや0歳児ならではの主体性について。

【研修の具体的な方法】

- ・ポストイット・写真・ビデオ・環境図などを使う。
- ・焦点を絞る。
- ・カンファレンス時に少人数で話し合う時間を設ける。
- ・スムーズに進行するために、司会と記録を分担する。
- ・話しやすい環境を作り、肯定的に受け止め多くの意見を聞いていく。

【課題・悩みなど】

- ・職員が少ないため、ブロック別園内公開保育の参加の仕方が難しい。
- ・職員が多いため、ゆったり話し合う時間をとることや全体での情報共有が難しい。
- ・学年1クラスなので、お互いのクラスを見に行くことが難しい。

講評

- ・園内で、どういう姿を見てほしいかを話し合い、公開保育の事前に伝えておく
と見る側も課題に沿った意見が言えるので良い。
- ・付箋や写真を使っていくという意見が多く出ていて、良かった。
- ・他園の先生も話しやすくなる形を、具体的に考え実践してほしい。
- ・写真やビデオは、撮る場面を決めることが難しいが、視覚的にみんなが見ることができ、一気に話しやすくなる。
- ・0歳の育ち・乳児から幼児へのつながりなどを、テーマにもつことも重要。
- ・いろいろなアイデアが出たので、自園でやったことを、同じブロックの他園にも伝え引き継いでいき、ブロック別園内公開保育を充実した研修になるよう取り組んでほしい。

作成者 幼児教育アドバイザー 近江 弥生